

幼稚園に關する意見

世人の幼稚園に對する意見は未だ一定せりと云ふ能はず。記者は頃日諸名家を訪ひて其意見を叩き之を讀者に紹介せんことを企てたれど事心と違ひ雜務に逐はれて未だ果さず。次には唯伊澤修二先生並に三輪田學士の兩意見を載す。以下また閑を得るに從ひて紹介の勢をとらんとす。乞諒。

伊澤修二

▲幼稚園教育が最初の必要機關であることは確かなもので、研究の餘地のあることも確かなものである。今度幼稚園を自ら經營したのも其邊の研究を充分自ら行つて見様と思からなのである。併し幼稚園を始めてから未だ日が淺いので充分の研究材料はないし、今遽かに確かな意見を述べると云ふことは出來ない。

▲そこで幼稚園に子供を出さぬと云ふ人は何う云ふ種類の人かと思へば、割合教育に關する業務に係はれる人、若しくは、教育學上に可なりの智識を

八

有する人である。是は又頗る研究の必要を促す問題と云はなければならぬ。夫れで何故子供を幼稚園に遣らぬかと云へば幼稚園に子供をやる子供が早熟していけぬとか、或は子供がいぢけると云ふのである。けれども是等は皆從來の幼稚園に於ける幼児の教育法が我國の幼児に不適當であつた爲めなので、私は幼稚園其ものが決して幼児を早熟せしむ可き筈のものではないと思ふ。また子供をいぢけさすと云ふが是は他に原因があつたのか或は保母の眼が届かなかつた罪で決して幼稚園其もの性質より來る可き罪ではないと思ふ。然らば眞の幼稚園なるものは果して如何なる教育主義を實現す可きかと云ふに其詳しきことは目下研究中で今茲に説明することが出來ないが幼児をして如何にも子供らしく無邪氣に應揚に悠然とし

た氣風を持つ様に取り扱ひ、窮屈な規律に押し込めたり、無理な腦力を使はせたりする様なことがなかつたらば現在の幼稚園に於ける缺點を除き世の一部の人の憂ふる様な危険は之を幼稚園から除くことが出来様と思ふ。例へば時間なども起居を一定の時間にし一日の生活を極めてさちやうめんパンクチュアレーにすると云ふことは必要には違ひないけれども、幼児には必ずしも學校の様に一分二分をも争ふと云ふ様にすることは能くないと思ふ。子供が愉快に遊んで居るときには五分や十分は何う變化しても差支ない、否時には多少の變化をしなければなるまいと思ふ。

▲又手技などを課しても少し六ヶ敷なるとぢきに倦きる、其倦きた時に無理にやらせないで直に遊戯に移ると云ふ様にしたらば、小供を無理に早熟

さすと云ふ心配もなからう。或批評家が幼稚園は子供を小怜悧にしていけぬと云ふ其攻撃點が何うも明でないけれども要するに此手技などを無理に巧みに遣らせ様とするを云ふのであらう。是も改むることは易々たることで凡べて子供が子供らしく無邪氣に工夫を凝らして造つたものに満足すると云ふことにしたらば決して害はないと思ふ。

▲以上は私の意見を具体的に述べたものであるが尙之を概括して云ふて見れば要するに幼児の教育は之を人工に近づけ、人工を甚だしく加ふると云ふよりは、可成的自然に委し自然に近づけると云ふことに重きを置き保姆は注意して之を無害有効の方に導くと云ふ方針を採つたならば過なからうと思ふ。即ち天然の動植物に親ませ、天然の現

象を經驗せしめて天然の發達に委せ天然の發育を誘導すると云ふ方が、却つて幼兒を悠長に育て鷹揚に慣らせるると云ふ効力あるだらうと思ふ。従つて此方法で行つたらば小せつくとか早熟するとか云ふ氣遣ひは確になからうと思ふ。是が私の理想の幼稚園である。

▲併し規則や規律によらず、自然に放任する様な風にして其間に導くと云ふのは、頗る六ヶ敷しい事で中々言葉で云ふ様に容易すく行ふ事は出来ない。例へば子供は騒ぐのがあたりまへで騒ぐなと云ふ方が間違ひであるから唯騒ぐなと押し付けるよりは騒がない様に誘導すると云ふことが理想であるが、さて實際となるとなかく然様甘くは行かない。併し保母の熟練次第では是は可なりに出来るものと思ふ。

▲以上述べた様に幼稚園の理想と云ふものは、成る可く人工を加へないで自然にすら〜と行く様に遣らせたいと思ふ所から私の幼稚園はあたり前の家を其儘使つて疊もひいてあれば庭もあると云ふ様にしてある。是は子供が自分の家庭と幼稚園との様子が餘り違はないと云ふ感じを興へるに最も都合のよいものであるのに加へて子供が或は座りて遊び或は相撲とりて遊ぶに最も都合よきもので幼稚園としては最も理想的ではあるまいかと思ふ。勿論机腰掛は備へてあるから机上の手技迄も座はらない必要はないが自由に遊ぶには最も都合がよいと思ふ。それから庭は築山は無論池も必要なら瀧や水車もほしいと思ふ。それから尙又鶏や兔の様なものも頗る面白いと思ふ。是等は追々設備し様と考へて居る。